



五味 一博 先生

#### 略歴

- 1985年 鶴見大学歯学部大学院歯学研究科修了
- 1985年 鶴見大学歯学部歯周病学教室助手
- 1991年 Visiting researcher (University of Toronto, Centre for Biomaterials, 1992年まで)
- 1996年 鶴見大学歯学部講師
- 1997年 鶴見大学歯学部助教授
- 2011年 鶴見大学歯学部歯周病学講座教授

#### 主な学会活動

日本歯周病学会常任理事・専門医・指導医, アメリカ歯周病学会 (AAP) 国際会員, 日本歯科保存学会理事・専門医・指導医, 日本レーザー歯学会理事・専門医・指導医

## 身体を守るトータルオーラルケア ～ソニックケアの新たな取り組み～

鶴見大学歯学部歯周病学講座  
五味 一博

平成28年の歯科疾患実態調査によると、8020達成者は前回調査の40.2%から51.2%へと大きく増加している。しかしその反面、4mm以上の歯周ポケットを有する者の割合は年々増加する傾向にある。これに対し歯ブラシの使用状況を見てみると、ほとんどの人が毎日歯を磨き1日2回以上歯を磨く人は年々増加している。このことは歯ブラシをしているが十分にその効果を得ることができていないことを示していると思われる。これは、これまでの口腔清掃の主体が手用歯ブラシであり、患者が行う歯ブラシの習熟度が低いことにより確実なプラークコントロールが行えていないことが考えられる。さらに超高齢化社会に向うにつれ、この傾向はさらに高まることが考えられる。

一方、歯周病が全身疾患に様々な影響を及ぼし、口腔内の不潔自体も誤嚥性肺炎などを引き起こすことが明らかとなってきた。このようなことから歯周領域に限らず適切に口腔全体の細菌コントロールを行うことは全身の健康維持に大きな役割を果たすことになり、その重要性が増している。

一般的な口腔清掃法としては手用歯ブラシによるブラッシングと歯間ブラシやフロスといった補助的清掃用具による指導が行われているが、高齢者のみならず一般の人でも複雑な清掃法を確実に実施することは難しい。しかしこの問題は、音波歯ブラシを用いることによって比較的容易に解決することができる可能性がある。特にソニックケアは、適切な部位にブラシヘッドを置くことで効果的なプラーク除去が可能であり歯や歯肉におけるプラークコントロールを確実に行うことができる。しかし、口腔内には歯周ポケットと同様に細菌のリザーバーとなる部位として舌があり、誤嚥性肺炎などに影響を与えることが考えられるが、これまで舌に対するプラークコントロールの対応は十分であったとはいえない。舌に対する対応としては、これまで歯ブラシを用いる方法や種々の舌ブラシによる方法が行われていたが、舌への傷害などの恐れがあった。フィリップス社ではソニックケアに装着できる舌磨きブラシヘッドを開発、販売している。この舌磨きヘッドはデリケートな舌を傷害することなく舌にある細菌の除去が可能であり、今後一般に広く普及させていく必要がある。

このように歯、歯肉そして舌におけるトータルオーラルケアを行うことは口腔疾患だけでなく全身への影響を抑えるために極めて重要である。そして音波歯ブラシはこの目的を達成するのに有用なインストゥルメントであると考えられる。しかし、その普及は十分とはいえない。これは我々歯科医療従事者が音波歯ブラシの効果や有用性を十分認識していないこと、その使用方法を十分に理解していないことから、患者への的確な推薦が出来ていないことがその大きな要因の一つかもしれない。

本セミナーでは、音波歯ブラシのプラークコントロールへの有効性と舌清掃の必要性についてソニックケアの様々な特徴を踏まえて解説することで理解を深めていただきたいと思います。